

解説

怨みの匂が即身仏をいきづかせる。

湯殿山は山形県中部に位置し、羽黒山、月山とともに出羽三山のひとつとして古くから信仰の山として有名である。入峰した修験者は身を浄め荒行に耐えそして即身仏になるため入定したという。明治末期まで入定は行なわれたと記録にある。しかし、幽海上人の入定については「語るなかれ、聞くなかれ」と謎に満ちた言葉が口伝書に残されていた。歴史のなかに埋もれた怨念をよびさますのはいつも新しい憎しみであろう。幽海上人の即身仏が発掘される時、乾涸びた肉体には似つかわない血の匂があたりを満ちて……。

原作は山村正夫。この『湯殿山麓呪い村』で角川小説賞を受賞している。横溝正史の流れをくむ伝奇推理小説のニューリーダー的存在。



湯殿山麓呪い村

ゆどのさんろく・のろいむら

●製作/角川春樹 ●原作/山村正夫(角川文庫版) ●監督/池田敏春

永島敏行・仙道敦子



主人公・滝に永島敏行。連続殺人とミイラにまつわる謎解きをするだけでなく恋人に対する愛情をつねに問われるというある意味では学問と信仰に生きる修験者に通じる役を、『人生劇場』、『地平線』と一作ごとに安定感を増している演技でこなしている。

また、事件の鍵を握る少女・能理子役に『白蛇抄』等で日本アカデミー新人賞を獲得している仙道敦子。大人には計りしれない子供特有のミステリアスな部分を見事に演じきっている。

そして監督はディレクターズ・カンパニーの俊英、池田敏春。デビューは、につかつ作品『スケバンマフィア〜肉刑一』(80)以後、抑圧された心理の描写とそれが噴出するときのアクションシーンに定評があり、最近作『人魚伝説』(ATG)においてもその粘着性のあるパワフルな画面構成がスリリングな展開をみせて好調。荒井晴彦、佐伯俊道の共同脚本によって、ミステリーを手際よく料理し、見るものを人の業が造りだす迷宮に招待してくれる。

晴れ、ときどき殺人

●製作/角川春樹 ●原作/赤川次郎(角川文庫版) ●監督/井筒和幸
●主題歌 渡辺典子(作詞・阿木耀子作曲・宇崎竜童 コロムビア・レコード)

渡辺典子・太川陽介



典子ウェザーリポート

典子台風、みたびスクリーンに上陸。

●天気概況

映画界でもポップスの世界でも新人たちは太平洋の真ん中で生まれる熱帯性低気圧みたいに数えきれないほどいますが、台風ンにまで成長するのはそのうちわずかですね。その点、典子は「伊賀忍法帖」(82)の艶姿一人三役、「積木くずし」(83)のつっぱりカーリーヘア、そして今回の「晴れ、ときどき殺人」では——目撃した殺人事件の真犯人を口にしようとした母親がいきをひきとってしまい、その事件にまきこまれていく女子大生、といったふうについてしまったスクリーンイキで天気図に表われて、わたしたちをイメージの暴風圏に誘い込んでしまいます。まる

過去をさぐれ

今、ブレッツシユ感覚ミステリ

で刻々とコースを変える気まぐれなマジカルウェザー台風ンといったところ。今後も典子リポートにはじゅうぶん注意されたほうが安全です。

●長期予報

さて、その典子、「少年ケニヤ」主題歌のヒットでスクリーンやテレビジョンのなかから全国的に前線をはりだし、それについで「晴れ、ときどき殺人」でスクリーンに上陸。そして次回作「いつか誰かが殺される」の秋公開が決定していますので、今年日本列島上に渡辺典子＝マジカル台風ンが停滞しつづけそうな雰囲気です。

●あすの天気

晴れ、ときどき殺人。降水確率5%未満ですが、ヒトひとりふたり……殺されそうです。犯人は典子のすぐ近くに!!



特別鑑賞券発売中!

1200円(当日一般1500円の処) ●5月26日(土)よりロード!

日比谷みゆき座 (591) 5357

渋谷パレス座 (461) 3534

新宿グランドオデオン (202) 0141

池袋劇場 (971) 8361

新宿武蔵野館 (354) 5670

リッツ劇場 (631) 3121